

取組実績の概要 【2ページ以内】

本プログラムを実施する神戸大学国際協力研究科及び復旦大学国際関係・公共事務学院、高麗大学校国際大学院は、それぞれ英語コースもしくは英語プログラムを持っており、それらのコースに相互派遣する形で、博士前期課程の大学院生を対象に、ダブルディグリー・プログラム（12ヶ月）と交換留学（6ヶ月／12ヶ月）を実施する体制を構築した。また、ダブルディグリー／交換留学プログラムの構築と並行して、プログラムの教育体系に沿った「キャンパスアジア科目」を正規科目として指定もしくは新規に開設し、本プログラムが育成を目指す人材に期待される知識やスキルを身につけるコア科目として位置づけ、その単位取得をプログラム修了証明書（サーティフィケート）の授与条件とし、プログラム参加学生が必須科目として履修するきっかけと動機を与えた。さらに、神戸大学では、「リスクマネジメントセミナー」を毎年開講し（平成24年度6回、25年度5回、26、27年度各8回）、国内外の専門家・研究家を招請して本コンソーシアムの枠を超えた国際的な付加価値を持つ、専門的な教育機会を提供した。これらの講義科目やセミナーに加えて、本プログラムでは、国際連合・世界銀行・ユネスコなど国内外の国際機関でのインターンシップを含めて単位を取得し、各大学で定めるところに沿って学位を得て、将来の東アジア、また世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成を目指した。

交換留学プログラムを通じた受入・派遣はともに年を追うごとに着実に実績を積み重ねるいっぽう、ダブルディグリー・プログラムについても、2つの学位を取得した修了生は平成25年に初めて誕生し、その後も神戸大学からの復旦、高麗両大学への派遣・受入の双方について毎年相当数の学位取得者を輩出している。

また、本プログラムでは、グローバルな人材の養成のための豊富なインターンシップの機会を、国際機関などの協力によって提供し、リスク・マネジメントについての実地研修を目的としたスタディツアーについても、現地のNGO等の団体の協力を得ながら毎年開催された。さらに、先述の「リスクマネジメントセミナー」では、これらのインターンシップやスタディツアーと連動させながら、国内外の多様な分野の専門家・研究家を講師として招き、現場に密着し、かつ専門的かつ高度なレベルの教育環境を提供した。平成25年からは、「リスクマネジメントセミナー」を連続講義の形で毎年開講し、平成27年度には「キャンパスアジア科目」として組織化することによって、プログラム参加学生が積極的に参加する枠組みを作り上げた。これらに加えて、専門家の集うシンポジウムやワークショップについても、プログラム参加学生の参加を後押しし、グローバル人材となるためのヒントや機会を学生に提供する場として位置づけられ、毎年開催された。特に、三大学合同で開催される国際シンポジウムでは、平成25年度より学生セッションを設けることによって参加学生に研究発表の機会を提供した。

これらのプログラム運営を担う教員間、および国際担当部署間での連絡体制について、特に本プログラムにおいては、国際交流本部の他に、国際協力研究科内に「キャンパスアジア室」が設けられ、准教授・助教相当の特命教員が配置されている。これらの教員は、プログラムに関係する講義や学生指導に当たるだけでなく、三大学間における十分な連絡・情報共有体制のための中核的拠点となっている。プログラムの円滑かつ密接な連絡体制のために、相手国における生活言語である中国語・韓国語に堪能な教員を配置することによって、誤解や遅滞のない連絡体制を可能とする信頼関係の確立を見た点は、本プログラムにおける特筆すべき取組実績である。そうした体制のもとで、プログラム参加学生に対してはマンスリーレポートの作成を依頼し、教育内容に関する継続的なモニタリングを実施した。それらの情報は、本学のキャンパスアジア室に蓄積されるとともに、三大学における教育内容の質保証のための資料として活用されている。

これらの環境整備をもとに、神戸大学では、プログラム終了まで合計30名の学生の復旦大学・高麗大学校への派遣を行なった。また同時に、神戸大学への受け入れについては、両大学から合計36名を受け入れるに至っている。このうち、復旦大学で学位（修士〔公共管理学〕）を授与された神戸大学からの派遣者は8名、高麗大学校で学位（修士〔国際学〕）を授与された神戸大学からの派遣者は7名、神戸大学で学位（修士〔経済学〕、修士〔国際学〕、修士〔政治学〕）を授与された復旦大学・高麗大学からの受け入れ者は13名を数えている。

のみならず、神戸大学においては、留学先で日本人学生が把握した情報を収集して状況の把握に努めるとともに、現地就業の機会・可能性についても、継続的に情報収集を行なった。こうした支援によって、神戸大学のプログラム参加学生については、語学力や留学経験が高く評価されたことによって、UNESCOバ

【公表】

ンコク事務所などの国際機関に加えて、コンサルティング会社などリスク・マネジメントに関わる民間企業への就職を果たした者も多い。

こうした取組実績を受けて、中国教育部による「亞洲校園（キャンパスアジア）」プログラム評価（平成26年度実施）においては、本プログラムが全評価指標で1位となり、総合評価でも1位を獲得した。この評価結果は、本コンソーシアムの成果とその内容が日本国内のみならず、中国でも高く評価されるものであることを示す事実として、特筆される。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合 計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	1人	0人	6人	6人	17人	18人	18人	19人	19人	20人	61人	63人
実績	1人	0人	6人	8人	9人	10人	11人	10人	3人	8人	30人	36人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。